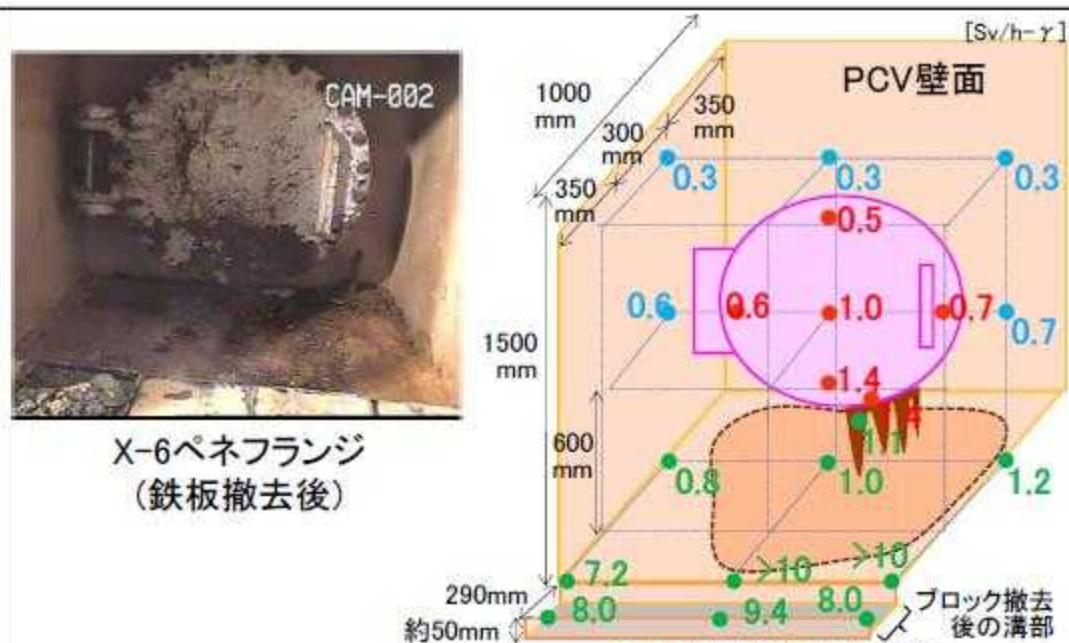


## 2. X-6ペネ小部屋内汚染調査結果

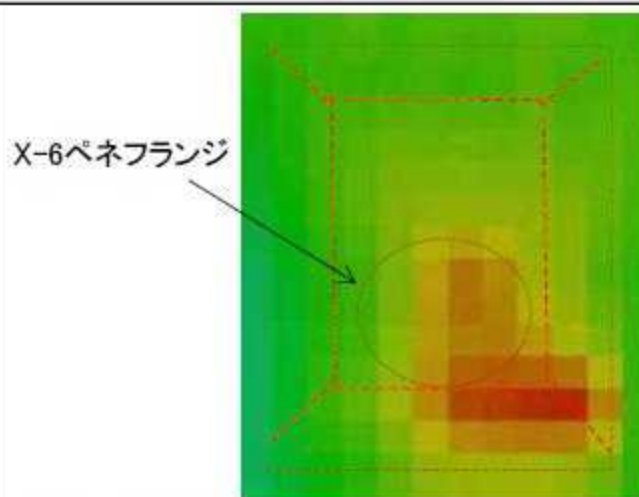
### 【表面線量率測定結果(コリメート付γ線線量計を用いた調査)】



X-6ペネフランジ  
(鉄板撤去後)

- ・表面線量率は、天井<中央<床面の順で大きくなる傾向であり、ブロック撤去後の溝部が特に高い。汚染は、溶出物近傍から溝に向かって形成されていると考えられる。
- ・X-6ペネ部と壁面の表面線量率の差をX-6ペネ内部からの線量寄与と仮定すると、X-6ペネ内部からの寄与は最大1Sv/h程度である。

### 【汚染分布調査(γカメラを用いた調査)】



- ・最下段のブロックおよび鉄板が残っている状態で調査
- ・ペネ及び床面に強い線源を確認。

### 【ペネ溶出物調査】



- ・床面の溶出物は固化しており、ヘラ等で容易に掻き取り可能であることを確認。(ペネフランジに付着していた溶出物は調査の際に剥離)